

両生類、魚類及び産業用家畜を使用する動物実験計画に関する動物実験委員会の申し合わせ事項

平成 26 年 3 月 26 日 動物実験委員会承認

改正 平成 29 年 9 月 28 日

令和 5 年 3 月 27 日

令和 7 年 12 月 25 日

広島大学動物実験等規規則第 41 条において飼養保管基準の趣旨を準用する同規則第 4 条第 2 号に規定する実験動物以外の動物及び同規則第 43 条において規則を適用しないとした産業用家畜とみなされる実験動物を使用する次の動物実験計画について、以下の申し合わせ事項として定める。

- (1) 哺乳類、鳥類及び爬虫類に属する実験動物以外の動物のうち両生類及び魚類に係る動物実験計画
- (2) 産業用家畜とみなされる実験動物への処置等に係る動物実験計画

なお、この申し合わせ事項のほか、両生類、魚類及び産業用家畜を使用する動物実験計画に関して必要な事項は動物実験委員会が定める。

○ 哺乳類、鳥類及び爬虫類に属する実験動物以外の動物のうち両生類及び魚類に係る動物実験計画の申し合わせ事項

1. 一般的事項

- ①法令、指針等によって当該動物に関して具体的な取扱いが定められるまでの間、動物実験委員会において必要な事項を定め運用する。
- ②動物の愛護及び管理に関する法律、飼養保管基準、基本指針の趣旨に沿った運用を図るとともに、必要な事項について広島大学動物実験等規則を準用する。
- ③法的規制がないことから全てを基準化するのではなく、必要最小限のことを定める。
- ④動物種によって大きく生態が異なり、画一的な判断が困難であるため、動物種に応じた運用をする。

2. 審査関係

- ①審査の対象は、動物実験計画の審査が必要な案件として申請のあった動物実験計画とする。(全ての案件が審査対象ではない。)
- ②動物実験委員会の両生類審査部会又は魚類審査部会において審査する。
- ③審査部会に関して必要な事項は、「広島大学動物実験委員会に置く審査部会の取扱い」にて定める。
- ④審査に必要な書類は、3①により作成した動物実験計画書及び 4②により作成した飼養保管施設チェックシートとし、必要に応じて参考となるものを添付する。

3. 動物実験計画関係

- ①動物実験計画書の作成要領は、次のとおりとする。(別紙 1、別紙 2)

- (1) 広島大学動物実験等規則に定める別記様式第 1 号「動物実験計画書」を使用すること。
- (2) 動物実験計画書 A ブロックは全て記入する。
- (3) 動物実験計画書 B ブロック「1 実験全体で使用する動物の必要数」、「2 算出根拠」は未記入で差し支えないが、それ以外は記入する。
- (4) 動物実験計画書 C ブロック「使用動物」の「品質・系統」、「性別」、「質」、「体重・年齢」、「匹数」、「入手先」、「遺伝学的保証」、「微生物学的保証」については未記入で差し支えない、「飼養場所」・「実験実施場所」の「承認番号」は未記入とし、これら以外は記入する。

4. 施設関係

- ① 飼養場所、実験実施場所の施設設置申請・承認は行わない。
- ② 飼養場所、実験実施場所については、動物実験計画の申請の都度、動物実験委員会審査部会が現場確認する。その際、飼養保管施設チェックシート又は実験室チェックシートを作成し、シートの所定の項目（黄色の欄）を確認する。（別紙 3、別紙 4）

5. 教育訓練関係

- ① 動物実験計画を申請する場合は、動物実験委員会が開催する教育訓練の受講は必須とする。（実験責任者を含む動物実験実施者全員が対象）

6. その他

- ① 承認番号は、次のとおりとする。
 - (1) 両生類 G〇〇(西暦年度の下 2 桁)－〇(通し番号)
 - (2) 魚類 F〇〇(西暦年度の下 2 桁)－〇(通し番号)

○ 産業用家畜とみなされる実験動物への処置等に係る動物実験計画の申し合わせ事項

1. 一般的事項

- ① 本申し合わせ事項は、広島大学動物実験等規則第 43 条ただし書きのとおり、産業用家畜とみなされる実験動物(以下「産業用家畜」という。)に対する血液の採取、人工繁殖若しくは外科的な措置(家畜改良増殖法(昭和 25 年法律第 209 号)に基づくものを除く。)を行う場合、薬理的な実験を行う場合又は解剖学、生理学、病理学等の基礎科学から応用獣医学、臨床獣医学等の教育若しくは実習に供する場合は、この限りでない。
- ② 産業用家畜と同じ動物種であっても実験動物として繁殖・販売しているものあるいは他機関等から分与を受けた実験動物は、広島大学動物実験等規則第 2 条第 2 号に規定する「実験動物」であり、本申し合わせを適用しない。
- ③ 産業用家畜の飼養保管については産業動物の飼養及び保管に関する基準(昭和 62 年総理府告示第 22 号)を適用し、生態の観察については家庭動物等の飼養及び保管に関する基準(平成 14 年環境省告示第 37 号)に準じて行うこと。
- ④ 本申し合わせ事項に定めるもののほか、産業用家畜とみなされる実験動物を科学上の利用に供することに関し必要な事項は広島大学動物実験等規則の定めによるもの

とする。

2. 審査関係

- ①審査の対象は、産業用家畜への外科的処置、サンプリングの処置等の 3R を考慮しなければならない研究、教育、実習の動物実験計画とし、それ以外の動物実験計画の審査が必要な案件(畜産に特化した実験計画など)として申請のあったものについても審査の対象とすることができる。
- ②動物実験委員会の産業用家畜審査部会において審査する。
- ③審査部会に関して必要な事項は、「広島大学動物実験委員会に置く審査部会の取扱い」にて定める。

3. 動物実験計画関係

- ①通常の動物実験計画書との区別を容易にするため、動物実験計画書 1 枚目の上部に「畜産」と記載する。
- ②動物実験計画書の作成要領は、次のとおりとする。(別紙 5)
 - (1)広島大学動物実験等規則に定める別記様式第 1 号「動物実験計画書」を使用すること。
 - (2)基本的に動物実験計画書の各ブロックは全て記入する。
 - (3)動物実験計画書 B ブロック「実験計画と方法」の内容欄に産業用家畜の飼養現場を使用する必要性を加える。
 - (4)動物実験計画書 C ブロック「部局等」、「建物」、「階」、「室名/部屋番号」は産業用家畜に係る該当飼養場所及び実験実施場所を記載する。ただし、産業用家畜に係る飼養場所等の承認番号は動物実験施設として承認されている場合を除き未記入とする。
 - (5)動物実験計画書 D ブロック「実験計画の補足説明」に産業用家畜へサンプリング等の処置をしなければならない理由を記入する。

4. 施設関係

- ①産業用家畜を科学上の利用に供することは動物実験に該当することから、その飼養場所等は動物実験に係る飼養保管施設、実験室である必要がある。
- ②他方、生物生産学部附属農場における産業用家畜に係る飼養場所等は産業動物の飼養及び保管に関する基準により取り扱うことが原則である。そのため動物実験に係る飼養保管施設、実験室としての施設設置申請・承認は行わないが、本申し合わせの対象施設とすることができる。

5. 教育訓練関係

- ①動物実験計画を申請する場合は、動物実験委員会が開催する教育訓練の受講は必須とする。(実験責任者を含む動物実験実施者全員が対象)

6. その他

①承認番号は、次のとおりとする。

(1) 研究、教育、実習 H〇〇(西暦年度の下2桁)ー〇(通し番号)

(2) 畜産など上記以外 I〇〇(西暦年度の下2桁)ー〇(通し番号)

別紙1 動物実験計画書 (両生類)

別記様式第1号(第16条関係) 動物実験計画書

広島大学長 殿

提出日： 年 月 日
受取日： 年 月 日

A

研究用 教育用
 新規 変更 (承認番号： , 承認年月日：)

実験責任者
氏名 _____ 職名・身分 _____
TEL: _____ 登録番号 _____
E-mail: _____ 印

飼養経費等負担者
氏名 _____ 職名 _____
TEL: _____ 登録番号 _____
E-mail: _____ 印

動物実験実施者 (全員記入)
氏名 _____ 職名・身分 _____
TEL: _____ 登録番号 _____
E-mail: _____
氏名 _____ 職名・身分 _____
TEL: _____ 登録番号 _____
E-mail: _____
氏名 _____ 職名・身分 _____
TEL: _____ 登録番号 _____
E-mail: _____

B

研究課題名
又は
授業科目名

開示の可否 1 全面開示 2 部分開示

和文 _____
英文 _____

実験目的

開示の可否 1 全面開示 2 部分開示

開示の可否 1 全面開示 2 部分開示

実験の種類 1 材料の採取 2 薬剤等の投与 3 外科的処置
 4 系統維持・繁殖 5 行動観察
 6 その他()

実験計画と方法

(内容)

1 実験全体で使用する動物の必要数()
2 算出根拠()

C

実験実施期間 年 月 日 ~ 年 月 日 (変更後の開始時期： 年 月 日から)

動物種 品種・系統 性別 性質 体重・齢 匹数 入手先

使用動物

遺伝的保証 1 有 2 無 未記入で差し支えない
微生物学的保証 1 有 2 無 未記入で差し支えない
部局等名： _____
飼養場所 _____
飼養保管施設名： _____
飼養動物管理者： _____
部局等名： _____
実験室名： _____
実験動物管理者： _____
承認番号： 未記入
動物実験が
必要な理由 1 代替手段がない 2 代替手段の精度が不十分
 3 その他()

安全管理上注意
を要する点

感染実験 BSL1 BSL2 BSL3
 遺伝子組換え動物使用実験
(承認番号：)
 放射線同位元素放射線使用実験
関係
 有害物質
 その他

想定される
苦痛の区分
(注：動物実験
における実験
処置に対する
倫理基準分類
参照)

A. 生きた動物を用いない実験
 B. 動物に対してほとんど不快を与えないと思われる実験
 C. 動物に対して軽微なストレス又は短時間持続する痛みを伴う実験
 D. 避けることのできない重度のストレスや痛みを伴う実験
 E. 麻酔していない意識のある動物を用いて動物が耐えることのできる最大に近い痛み
又はそれ以上の痛みを与えるような実験 (基本的に承認されない)

1 動物の摂餌・歩行などの状態から軽微な苦痛の範囲内で、特に処置を講じる必要はない。
 2 麻酔薬や鎮痛剤などの薬剤を投与する。
薬剤名・投与量・投与方法
(1) _____
(2) _____
 3 短時間の保定・拘束のため、特に問題は無い。
 4 実験の都合上やむを得ず24時間以上の保定・拘束をする。
 5 重度のストレスや疼痛を伴うが、苦痛の軽減方法がない。
 6 その他()

動物の苦痛の
種類と軽減法

1 麻酔薬の投与及び吸入 薬剤名()
 2 炭酸ガス
 3 頸椎脱臼・断頭 (深麻酔と併用すること。)
 4 その他()

安楽死の方法
(複数回答可)

1 大学内で焼却 (場所：)
 2 外部業者に委託
 3 その他 (具体的に記入：)

D

実験計画の補足説明 1. なし 2. あり (別紙添付)

※受付側記入欄

承認 承認番号 _____
承認年月日： _____

学長の承認・不承認
特記事項： _____

GOO(西暦の下2桁) - O(通し番号)

別紙2 動物実験計画書 (魚類)

別記様式第1号(第16条関係) 動物実験計画書

提出日: 年 月 日
受取日: 年 月 日

広島大学長 殿

A

研究用 教育用
 新規 変更 (承認年月日:)

実験責任者
 氏名: _____ 職名・身分: _____
 連絡先 TEL: _____ 印 登録番号: _____

飼養経費等負担者
 氏名: _____ 職名: _____
 連絡先 TEL: _____ 印

動物実験実施者 (全員記入)
 氏名: _____ 職名・身分: _____ 登録番号: _____
 連絡先 TEL: _____
 氏名: _____ 職名・身分: _____ 登録番号: _____
 連絡先 TEL: _____
 氏名: _____ 職名・身分: _____ 登録番号: _____
 連絡先 TEL: _____
 氏名: _____ 職名・身分: _____ 登録番号: _____
 連絡先 TEL: _____

B

研究課題名
又は
授業科目名

開示の可否 1 全面開示 2 部分開示
和文
英文

実験目的

開示の可否 1 全面開示 2 部分開示
 1 全面開示 2 部分開示
 1 材料の採取 2 薬剤等の投与 3 外科的処置
 4 系統維持・繁殖 5 行動観察
 6 その他()

実験計画と方法

1 実験全体で使用する動物の必要数()
 2 算出根拠()

実験実施期間 年 月 日 ~ 年 月 日 (変更後の開始時期: 年 月 日から)

動物種 品 種 ・ 系 統 性 別 質 体 重 ・ 齢 匹 数 入 手 先

使用動物 未記入で差し支えない

遺伝的保証 1 有 2 無 未記入で差し支えない
 微生物学的保証 1 有 2 無 未記入で差し支えない

飼養場所 飼養管理施設名: _____
 飼養管理者: _____
 飼養設備名: _____
 承認番号: _____

実験実施場所 実験室名: _____
 承認番号: _____
 承認者: _____

動物実験が 必要ない理由 1 代替手段がない 2 代替手段の精度が不十分
 3 その他()

安全管理上注意を要する点 1 無 2 有 3 その他()

名称 有害性 注意点
 感染実験 BSL1 BSL2 BSL3
 遺伝子組換え動物使用実験 P1A P2A P3A
 (承認番号:)
 放射性同位元素放射線使用実験
 有害物質
 その他

相定される苦痛の区分 (注) 動物実験における実験処理に対する処置に耐えることのできる最大に近い痛み又はそれ以上の痛みを与えるような実験 (基本的に承認されない。)

1 動物の損傷・歩行などの状態から軽微な苦痛の範囲内で、特に処置を講じる必要はない。
 2 麻酔薬や鎮痛剤などの薬剤を投与する。
 (1) 薬剤名・投与量・投与方法
 (2) _____)
 3 短時間の保定・拘束のため、特に問題はない。
 4 実験の都合上やむを得ず24時間以上の保定・拘束をする。
 5 重度のストレスや疼痛を伴うが、苦痛の軽減方法がない。
 6 その他()

動物の苦痛の種類と軽減法 1 麻酔薬の投与及び吸入 薬剤名()
 2 炭酸ガス
 3 頸椎脱臼・断頭 (深麻酔と併用すること。)
 4 その他()

安楽死の方法 (複数回答可) 1 大学内で焼却 (場所:)
 2 外部業者に委託
 3 その他 (具体的に記入:)

実験終了後の動物の処置 1 大学内で焼却 (場所:)
 2 外部業者に委託
 3 その他 (具体的に記入:)

D

実験計画の補正説明 1. なし 2. あり (別紙添付)

※受付側記入欄

学長の承認・不承認 承認 承認番号: _____
 承認年月日: _____
POC(西暦の下2桁) - O(通し番号)

特記事項: _____

別紙 3-2 実験室チェックシート (両生類)

実験室チェックシート (両生類)		動物種		質
調査日	年 月 日			
場所				
実験室	構造	調査項目	判定	備考
	床	溝槽が容易に陥没する可能性のある突起・亀裂など	良・否	
	壁	溝槽が容易に陥没する可能性のある突起・亀裂など	良・否	
	逃走防止	出入口	有・無	
	衛生配管	種類 (逃亡防止柵・二重扉など)	有・無	
	その他	床排水や流し台などの有無 排水口などがある場合の対策 (網の取付けなど) 通気口などの開口部の有無 開口部がある場合の対策 (網の取付けなど)	有・無	
衛生	臭気防止策	屋外排気や防臭装置の有無	有・無	
	騒音防止策	屋外排気の場合、周辺への影響の有無	有・無	
	廃棄物の処理	機械作動音や動物の鳴き声への対策の有無	有・無	
		動物死体	保管設備の有無	有・無
その他	廃棄の方法 (業者委託・焼却など)			
	他の廃棄物	保管設備の有無 廃棄の方法 (業者委託・焼却など)	有・無	
安全管理	実験室の安全管理に関する手順書	動物逃走時の対応手順	有・無	
		設備などの事故発生時の対応手順	有・無	
		地震・火災などの対応手順	有・無	
		実験室の安全管理に関する手順書の作成と実験室への配備	有・無	
その他	施設の実情に応じた必要事項等			
特記事項	安全管理	人畜共通感染症などに罹患した際に診療を行う医師及び健康管理への連絡体制 (連絡網等) の作成と配備	有・無	
		地震・火災などの緊急時におけるべき措置に関する計画書類 (連絡網) の作成と配備	有・無	
調査結果	調査委員名と意見			

別紙4-1 飼養保管施設チェックシート（魚類）

飼養保管施設チェックシート（魚類）		動物種		質	
調査日	年月日	判定	備考		
場所					
飼養	床	防水性や耐薬品性など	有・否		
装置	壁	障害等の可能性のある突起・亀裂など	良・否		
	天井	防水性や耐薬品性など	良・否		
	照明器具	防水性や耐薬品性など	良・否		
	遮光	窓などの有無	有・無		チェック不要
環境	温度	遮光対策の有無	有・無		
		遮光の方法	有・無		
		設備の有無	有・無		
		正常に動作しているか	良・否		
		設定値	夏℃ 冬℃		水温℃
		モニター方法	有・無		
		設備の有無	有・無		
		正常に動作しているか	良・否		
		設定値	%		
		モニター方法	有・無		
		設備の有無	有・無		
		正常に動作しているか	良・否		
		種類（換気扇・ロスナイなど）	有・無		
		照時間調整機器の有無	有・無		
		点灯時間	時間		
逃走防止	出入口	ネズミ返しなどの有無	有・無		
		床排水や流し台などの有無	有・無		
		排水口などがある場合の対策（網の取付けなど）	有・無		
		通気口などの開口部の有無	有・無		
		開口部がある場合の対策（網の取付けなど）	有・無		
飼育器材	ラック・ケージ	メーカー			
		型式			
		数量			
		動物種に応じた逃亡防止の構造と強度がある	良・否		
		容易に掃除・排水ができる	良・否		
		容易に排尿・排糞ができる	良・否		
		自然な姿勢が維持できやすいこと	良・否		
		実験動物が障害を受けにくい構造であること	良・否		
		洗浄・消毒・滅菌などが容易な構造で、それに耐える強度を有すること	良・否		
衛生	洗浄	飼育器材などに選んだ流し台などの有無	有・無		
		洗浄器具などの有無（ブラシやスクレーパーなど）	有・無		
		オートクレープなどの滅菌設備の有無	有・無		
		消毒薬などの有無	有・無		
		屋外排気や脱臭装置の有無	有・無		
		屋外排気の場合、周辺への影響の有無	有・無		
		機械作動音や動物の鳴き声への対策の有無	有・無		
		換気扇・通気口などの害虫の侵入経路に対する侵入防止措置（フィルターなど）の有無	有・無		哺乳類のうち実験用霊長類のみならぬ動物種及び家畜・野鳥などの鳥類を除く実験動物に適用
		出入り口の開閉は必要最小限にとどめているか	良・否		
		動物死体 保管設備の有無	有・無		
		他の廃棄 保管の方法（業者委託・焼却など）	有・無		
		廃棄の方法（業者委託・焼却など）	有・無		

調査項目	判定	備考
標準操作手順書	有・無	
利用者への登録手順	有・無	
動物搬出入手続きの手順	有・無	
関係書類の保存・廃棄手順	有・無	
検収・検査・順化の手順	有・無	
給餌・給水・床敷交換などの手順	有・無	
飼育動物の状況確認	有・無	
入退室の手順	有・無	
飼育器材の洗浄・消毒・滅菌の手順	有・無	
死体の保管と廃棄の手順	有・無	
床敷などの廃棄と廃棄の手順	有・無	
感染性廃棄物などの保管と廃棄の手順	有・無	
飼育室の清掃消毒などの手順	有・無	
設備・機器の保守点検の手順	有・無	
故障時の対応手順	有・無	
動物搬送防止対策の点検の手順	有・無	
動物搬送時の対応手順	有・無	
咬傷などの事故発生時の対応手順	有・無	
飼養保管施設設置等承認申請書の判断	有・無	
の添付	有・無	
手順書の	有・無	
標準操作手順書の飼養保管施設への配備	有・無	
施設の実情に応じた必要事項等		
記録・保存書類	有・無	
検査などに関する書類	有・無	
人手充、飼育履歴、病歴などに関する書類	有・無	
輸送に関する書類	有・無	
安全管理	有・無	
利用者の入室管理方法	有・無	
人畜共通感染症などに罹患した際に診療を行う医師及び健康管理への連絡体制（連絡網等）の作成と配備	有・無	
咬傷等の事故発生時に必要な医薬品類の配備	有・無	
地震、火災などの緊急時におけるべき措置に関する計画書類（連絡網）の作成と配備	有・無	
特記事項		
調査委員名と意見		

別紙 4-2 実験室チェックシート (魚類)

実験室チェックシート (魚類)		動物種		質	備考
調査日	年月日	調査項目	判定		
実験室	場所	構造	清掃が容易 腐害等の可能性のある突起・亀裂 など	良・否 良・否 良・否 良・否	
		壁	清掃が容易 腐害等の可能性のある突起・亀裂 など	良・否 良・否	
		逃走防止	出入口 ネズミ返しなどの有無	有・無	
		衛生配管	種類 (ネズミ返し・二重扉など) 床排水や流し台などの有無 排水口などある場合の対策 (網の 取付けなど)	有・無 トラップ 有・無	
		その他	通気口などの開口部の有無 開口部がある場合の対策 (網の取 付けなど)	有・無	
		衛生	衛気防止策 屋外排気や脱臭装置の有無 屋外排気の場合、周辺への影響の有無	有・無 有・無	
		騒音防止策	機械作動音や動物の鳴き声への対策の有無	有・無	
		廃棄物の処理	動物死体 廃棄の方法 (業者委託・焼却な ど)	有・無	
		その他	他の廃棄 保管設備の有無 廃棄の方法 (業者委託・焼却な ど)	有・無	
		実験室の安全管理に関する手順書	動物逃走時の対応手順 咬傷などの事故発生時の対応手順 地震・火災などの対応手順 実験室の安全管理に関する手順書の作成と実験室への配備 施設の実情に応じた必要事項等	有・無 有・無 有・無 有・無	
安全管理	人畜共通感染症などに罹患した際に診療を行う医師及び健康管理への連絡体制 (連絡網等) の作成と配備 地震、火災などの緊急時にとるべき措置に関する計画書類 (連絡網) の作成と配備	有・無			
特記事項					
調査結果		調査委員名と意見			

別紙5 動物実験計画書 (産業用家畜)

上部に「畜産」の表示を記載する

別記様式第1号(第16条関係)

動物実験計画書

広島大学長 殿

提出日： 年 月 日
受取日： 年 月 日

A

研究用 教育用 変更 (承認番号：) 承認年月日：)

新規

実験責任者	所属氏名	承認番号	職名・身分
	TEL:	E-mail:	登録番号
飼養経費等負担者	所属氏名	承認番号	職名・身分
	TEL:	E-mail:	登録番号
	所属氏名	承認番号	職名・身分
	TEL:	E-mail:	登録番号
動物実験実施者 (全員記入)	所属氏名	承認番号	職名・身分
	TEL:	E-mail:	登録番号
	所属氏名	承認番号	職名・身分
	TEL:	E-mail:	登録番号

B

開示の可否 1 全面開示 2 部分開示

和文

英文

開示の可否 1 全面開示 2 部分開示

開示の可否 1 全面開示 2 部分開示

実験の種類 1 材料の採取 2 薬剤等の投与 3 外科的処置

4 系統維持・繁殖 5 行動観察

6 その他()

(内容)

実験計画と方法

産業用家畜の飼養現場を使用する必要性を加えて記入する。

1 実験全体で使用する動物の必要数()

2 算出根拠()

実験実施期間	年 月 日 ~ 年 月 日 (変更後の開始時期： 年 月 日から)
使用動物	動物種 品種・系統 性別 質 体重・齢 匹数 入手先
飼養場所	飼養施設名： 実験動物管理者： 飼養管理施設名： 飼舎等名： 実験室名： 実験室番号： <input type="checkbox"/> 1 代替手段がない <input type="checkbox"/> 2 代替手段の精度が不十分 <input type="checkbox"/> 3 その他()
動物実験が 必要な理由	<input type="checkbox"/> 1 無害性 <input type="checkbox"/> 2 有害性 注意点 <input type="checkbox"/> 3 感染実験 <input type="checkbox"/> 4 BSL1 <input type="checkbox"/> BSL2 <input type="checkbox"/> BSL3 <input type="checkbox"/> 5 遺伝子組換え動物使用実験 <input type="checkbox"/> 6 P1A <input type="checkbox"/> P2A <input type="checkbox"/> P3A 承認年月日： (承認番号：) <input type="checkbox"/> 放射線同位元素放射線使用実験 <input type="checkbox"/> 関係 <input type="checkbox"/> 有害物質 <input type="checkbox"/> その他
安全管理上注意 を要する点	<input type="checkbox"/> A. 生きた動物を用いない実験 <input type="checkbox"/> B. 動物に対してほとんど不快を与えないと思われる実験 <input type="checkbox"/> C. 動物に対して軽微なストレス又は短時間持続する痛みを伴う実験 <input type="checkbox"/> D. 避けることのできない重度のストレスや痛みを伴う実験 <input type="checkbox"/> E. 麻酔していない意識のある動物を用いて動物が耐えることのできる最大に近い痛み又はそれ以上の痛みを与えるような実験 (基本的に承認されない。)
想定される 苦痛の区分 (注：動物実験 における実験 処置に対する 倫理基準分類 参照)	<input type="checkbox"/> 1 動物の徘徊・歩行などの状態から軽微な苦痛の範囲内で、特に処置を講じる必要はない。 <input type="checkbox"/> 2 麻酔薬や鎮痛剤などの薬剤を投与する。 薬剤名・投与量・投与方法 (1) (2) <input type="checkbox"/> 3 短時間の保定・拘束のため、特に問題はない。 <input type="checkbox"/> 4 実験の都合上やむを得ず24時間以上の保定・拘束をする。 <input type="checkbox"/> 5 重度のストレスや疼痛を伴うが、苦痛の軽減方法がない。 <input type="checkbox"/> 6 その他()
動物の苦痛の 種類と軽減法	<input type="checkbox"/> 1 麻酔薬の投与及び吸入 薬剤名() <input type="checkbox"/> 2 鎮痛剤 <input type="checkbox"/> 3 頸椎脱臼・断頭 (深麻酔と併用すること。) <input type="checkbox"/> 4 その他()
処置の方法 (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 1 大学内で施設 (場所) <input type="checkbox"/> 2 外部業者に委託 <input type="checkbox"/> 3 その他 (具体的に記入)
実験終了後の 動物の処置	<input type="checkbox"/> 1 大学内で施設 (場所) <input type="checkbox"/> 2 外部業者に委託 <input type="checkbox"/> 3 その他 (具体的に記入)

産業用家畜へサンプリング等の処置を
しなければならぬ理由を記入する。

※受付側記入欄

実験計画の補足説明 1. なし 2. あり (別紙添付)

承認 承認番号 (1) 研究, 教育, 実習 : H○○(西暦年度の下2桁) - ○(通し番号)
(2) 畜産など上記以外 : IO○ (西暦年度の下2桁) - ○(通し番号)

承認年月日

特記事項 :